

Title	東京歯科大学千葉病院口腔外科における平成23年度初診患者の臨床統計
Author(s)	長谷川, 大悟; 岡本, 江理奈; 重野, 健一郎; 高田, 満; 折戸, 聡; 大金, 覚; 恩田, 健志; 渡邊, 章; 薬師寺, 孝; 野村, 武史; 須賀, 賢一郎; 中野, 洋子; 大畠, 仁; 高木, 多加志; 内山, 健志; 高野, 伸夫; 柴原, 孝彦
Journal	歯科学報, 112(4): 546-546
URL	http://hdl.handle.net/10130/2891
Right	

No.19: 東京歯科大学千葉病院口腔外科における平成23年度初診患者の臨床統計

長谷川大悟, 岡本江理奈, 重野健一郎, 高田 満, 折戸 聡, 大金 寛, 恩田健志, 渡邊 章, 薬師寺 孝, 野村武史, 須賀賢一郎, 中野洋子, 大畠 仁, 高木多加志, 内山健志, 高野伸夫, 柴原孝彦 (東歯大・口外)

目的: 東京歯科大学口腔外科は昭和56年9月, 大学の千葉市への移転を機に開設され, 地域歯科医師会の協力のもと, 医療連携を重視しながら高度医療機関として活動してきた。口腔外科では歯, 顎, 口腔領域の疾患の予防と治療を目的とする歯科医学の一分野で, 今日までに目覚ましい進歩を遂げており, 本学口腔外科においても, 口腔疾患の治療と抑制, さらに口腔機能の保全と回復に向けて, 治療水準を向上すべく, 基礎的かつ臨床的研究を積み重ねてきた。今後の口腔外科における医療提携の内容と質の向上を目指すために平成23年度の初診患者の臨床統計を行った。

方法: 今回は平成23年4月1日から平成24年3月31日までの1年間における当科の初診患者を対象として, 日本口腔外科学会調査企画委員会が作成した実績調査票に基づき, 性別, 年齢分布, 月別患者数, 来院の主訴, 来院地域, 受診経路, 疾患別, 基礎疾患の有無についての臨床統計を行った。

成績: 期間中に受診した初診患者数は8,693例であった。年齢は生後1週間から99歳までで, 平均年

齢は42歳であった。年齢別患者数は20歳代が最も多く, このうち歯の疾患, 特に埋伏歯関連が多数を占めていた。次いで, 30歳代, 60歳代が多く, 20歳代と比べると基礎疾患有病者率が高くなり, 歯周疾患や腫瘍性病変, 口腔粘膜疾患の割合の増加が認められた。月別患者数では8月が最も多く, 12月が最も少なかった。来科地域はほとんどが千葉県内で, なかでも千葉市が最も多かった。受診経路は他の医院または歯科医院からの紹介受診が過半数を占めていた。疾患別では歯の疾患が過半数を占めていて, ついで顎関節症が多かった。基礎疾患を有している患者では高血圧症が多く認められた。

考察: 当科は, 基礎疾患を有している患者や高齢の患者が多数来院しているのが現状であるが, 今後高齢化社会に伴い, 全身疾患を有している患者のさらなる増加が予想される。院内はもとより地域の医療機関との連携をさらに密なものとし, 合併症の併発にも対応できるよう, 口腔外科としての専門性に加えて全身管理の充実を図りながら, 診療の向上に努めていきたいと考えている。

No.20: 東京歯科大学市川総合病院歯科・口腔外科における平成23年度救急外来受診患者の臨床統計

浦住勇介¹⁾, 井桁薫子¹⁾, 山本雄輔¹⁾, 酒井克彦¹⁾, 武田 瞬¹⁾, 吉田恭子¹⁾, 浮地賢一郎¹⁾, 有坂岳大¹⁾, 宇治川清登¹⁾, 佐藤一道²⁾, 武安嘉大¹⁾, 大木貴博³⁾, 片倉 朗¹⁾²⁾
(東歯大・オーラルメディスン口外)¹⁾ (東歯大・口腔がんセンター)²⁾ (東歯大・市病・救急部)³⁾

目的: 東京歯科大学市川総合病院は診療科20科を有する歯科大学付属の総合病院であり, 市川市の地域拠点病院として2.5次救急医療の役割を担っている。今回われわれは平成23年4月1日から平成24年3月31日までの歯科・口腔外科の救急外来受診患者の臨床的統計を行ったので, 若干の考察を加えて報告する。

方法: 平成23年4月1日から平成24年3月31日までの1年間に東京歯科大学市川総合病院歯科・口腔外科の診療時間外救急外来を受診した患者を対象とした。調査項目は対象患者の性別, 年齢, 受診時間, 疾患名, 処置内容とした。外傷については, 軟組織損傷, 歯牙脱臼・破折, 顎骨骨折に分類した。疾患に対して複数疾患ある場合には主傷病を疾患名とし, 1人1疾患として集計した。

成績: 平成23年4月から平成24年3月まで東京歯科大学市川総合病院が受け入れた救急患者総数は, 6,243人で, 歯科・口腔外科が受け入れた救急患者は, 997人であり, 病院全体の救急患者の16%であった。性別内訳は男性563人(56%), 女性434人(46%)と男性の方が多く見られた。年齢別内訳は10歳未満が最も多く192人(19%), 次いで30代163人

(16%), 20代144人(14%)であった。時間帯内訳は20時台~22時台が最も多く, 全体の25%であった。疾患別内訳は軟組織損傷が最も多く275例(27%), 次いで, 歯の疾患179例(17%), 歯牙外傷101例(10%)であった。処置内訳は, 投薬のみの処置が最も多く370例(37%), 次いで, 診察のみ216例(21%), 口腔軟組織損傷, 出血に対する縫合処置146例(14%)と続いた。また, 入院を必要とした症例22例(2%)であった。他部位の外傷など他科と併診した症例も多かった。

考察: 当科の救急外来症例として, 外傷が最も多かった。これは総合病院の特色を生かし他科との共同診療が必要な症例の受け入れも可能で, 救急指定病院であるためと考えられる。口腔軟組織損傷や歯の損傷, 咬合異常に対する歯科・口腔外科の専門性を生かした診療の必要性が求められる症例が多いことが示唆された。一方, 投薬, 診察のみで対応が十分であった症例もあり安易な救急外来の利用も認められた。歯科においても休日歯科診療所の利用など地域歯科医師会と連携した救急外来の適正利用に対する啓発も必要であると考えられた。